

令和 8 年度授業改善推進プラン評価（成果と課題）表

文京区立明化小学校

【第 3 学年】

	成果	課題
国 語	・ 1 学期の知識・技能の到達度は、82%だった。領域別では、漢字83%、言葉83%、話す・聞く83%、読むこと88%と概ね良好であり、基礎的な知識・技能は身に付いている。特に、「読むこと」では、文章中の言葉を手掛かりに、登場人物の気持ちや場面の様子を考える力が身に付いてきた。	「書くこと」は75%と他領域に比べて低く、自分の考えを理由とともに順序立てて書いたり、目的や相手を意識して文章を構成したりすることに課題が見られる。そのため、書く機会を継続的に設定し、文章の構成や表現を意識した指導を充実させる必要がある。
社 会	・ 課題解決に必要な情報を資料から見付け、まとめる学習にも意欲的に取り組むことができた。調べた情報をグループで共有したり、クラス全体で共有したりする学習場面では、積極的に情報を伝えようとする姿が見られた。	・ 1 学期の知識・技能の到達度は81%であった。学習内容に関する基礎的な知識を定着していけるように、復習する機会を設けたり、新しい知識を既有知識とつなげたりすることを意識した授業を行う。また、2 学期からは ICT を学習の中で活用する機会を増やし、ICT を効果的に活用できる児童の育成を目指す。
算 数	・ 1 学期の知識・技能の到達度は 86%であった。習熟度別の学習にも慣れ、意欲的に学習に取り組んでいる。授業では、自分の考えを図・式・言葉を用いて分かりやすくまとめることができる児童が増えた。	・ 文章問題において、問題文を正確に読み取ることや、算数の用語を用いた説明をすることに課題が見られた。問題文の読み取りを丁寧に行う活動や、算数の用語を用いて説明し合う活動を充実させる。
理 科	・ 1 学期の思考・判断・表現の達成度は 87%であった。植物の観察では、異なる植物の形や大きさを比べ、共通点と差異点を見出す力が身に付いた。風とゴムのはたらきでは、「車のスタート位置を揃える」「風を当てる向きを同じにする」など、条件をそ	・ 植物の観察では、夏季休業を挟むため、植物の生長への興味・関心を途切れさせずに観察を持続させることが難しい。風とゴムのはたらきでは、車を走らせる楽しさが勝ってしまい、データの測定や規則性の発見という「実験の目的」を見失いがちになっ

	ろえて比較実験を行うことができた。	てしまう。課題の明確化とルールの仕組み化を行い、学びの質を改善する。
音 楽	・器楽では、初めてソプラノリコーダーに取り組み、きれいな音色が出るように奏法に気を付けて取り組むことができた。 ・リズムやドレミの学習では、伴奏や友達の演奏をよく聴きながら体を動かして音楽の特徴を捉えながら取り組むことができた。	・歌唱では、呼吸及び発音の仕方に気を付け、響きを生かして歌うことに、個人差が見られる。呼吸や声の響きに留意した歌い方を試したり、声の使い方を意識しながら歌えたりするように働きかける。
図画工作	・1学期は、様々な材料や用具に親しみながら、自分の思いや感じたことを表現しようとする姿が多く見られた。題材に応じて形や色の組み合わせを工夫し、自分らしい表し方を考えながら製作に取り組むことができた。また、友人の作品を鑑賞する活動では、作品のよさや工夫に気付き、互いの表現のよさを認め合う姿が見られた。これらの活動を通して、発想や構想の力、造形的な見方・考え方が育まれた。	・自分の思いやイメージを表現できるようになってきたが、材料や用具の特徴を十分に生かして表現を工夫する力については個人差が見られた。また、製作の途中で試行錯誤しながら表現を改善していく姿勢を、さらに育てていく必要がある。今後は、多様な表現方法に触れる機会を増やし、友人との対話や鑑賞活動を充実させることで、より豊かな発想や表現につなげていく。
体 育	・運動に対して非常に意欲的であり、最後まで努力して運動をすることができた。 ・順番を守る、用具を安全に片付けるといったルールやマナーを定着させることができた。	・運動が苦手な仲間への配慮や、チームで協力して作戦を工夫・実践する思考力にはまだ課題がある。振り返りの時間を意図的に確保し、言葉での交流を促し、互いの良さを認め合い、協働して課題を解決する力を育てる。